令和３年度 水稲育苗ﾊｳｽ利用「シャインマスカット」病害虫防除暦

水稲用農薬がぶどうの根から吸収されないよう地面にシートを敷く。また、水稲用農薬がぶどうに飛散しないよう十分な対策を実施する。
水稲育苗中は、ぶどうへの薬剤散布は実施しない！

ＪＡ佐渡

農薬取締法では、農薬使用者の責務や、遵守義務規定、努力規定が定められています。ﾙｰﾙを守って正しく使用しましょう。

【表示されている農薬の使用基準は令和２年12月14日現在の登録内容です】

回数	生育状態 時期	主な 対象病害虫	展着剤 ○使用	薬剤名	収穫前 日数	総使用 回数	使用 濃度	１０ﾘｯﾄﾙ 当たり 薬量	１ｱｰﾙ 当たり 散布量	注意事項
1	水稲苗搬入前 発芽前 (3月下～4月上)	晩腐病 黒とう病 褐斑病	○	ベフラン液剤25	休眠期	1回	250倍	40 mℓ	25ﾘｯﾄﾙ	水稲苗にかからないよう、搬入予定の数日前までに散布しておく。 水稲苗に使用した薬剤が地面に漏出しないよう、必ずシート等を敷いて地面と隔離する。
満開予定日の10日前頃		無種子化	－	アグレプト液剤	満開予定日の 14日前～ 開花始期	1回	1000倍	10 g	－	散布、花房散布、花房浸漬のいずれかで実施。 水稲苗にかからないようにする。
2	水稲苗搬出後 開花直前 (5月中下旬)	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ハマキムシ類 灰色かび病	○	スカウトフロアブル	7日	3回	2000倍	5 mℓ	25ﾘｯﾄﾙ	
				ゲッター水和剤	45日	1回	1000倍	10 g		
満開3日後		無種子化、 果粒肥大促進	－	ジベレリン処理	満開～ 満開３日後	1回	25ppm		－	湿度が高い方が効果が安定するので、土壌やハウス内が乾燥している場合は、事前に散水しておく。 フェーンなど高温乾燥時の処理は効果が安定しないので避ける。
		着粒安定		フルメット液剤加用		1回	5ppm			
3	6月上旬 落弁期	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病	－	ロブラール水和剤	開花期～ 幼果期 60日	3回	1000倍	10 g	25ﾘｯﾄﾙ	
				ホライズンドライフロアブル	21日	3回	2500倍	4 g		
満開10～15日後		無種子化、 果粒肥大促進	－	ジベレリン処理	満開10～15日 後	1回	25ppm		－	処理後、ジベレリンが房先に溜まったまま放置すると果粒がヤケることがあるので、軽く振るなどして余分な処理液を落とす。
4	小豆大まで (袋かけ前) 6月上旬～下旬	うどんこ病 黒とう病 さび病	－	マネージDF	21日	3回	4000倍	2.5 g	25ﾘｯﾄﾙ	マネージDFにかえてﾄﾘﾌﾐﾝ水和剤 2000倍（7日前/3回以内）でも良い。 チャノキイロアザミウマの発生が確認された場合、スカウトフロアブル2000倍（7日前/3回以内）を混用する。
臨時	6月～7月	ハダニ類 ブドウサビダニ	－	マイトコーネフロアブル	21日	1回	1000倍	10 mℓ	25ﾘｯﾄﾙ	ハダニ類の発生に注意し、見つけたら早めに散布する。 梅雨明け前、梅雨明け後の高温でハダニ類が増加するのでよく観察し、発生初期に散布する。（笠の場合は棚上散布） うどんこ病が発生した場合は、ダニ剤にオンリーワンフロアブルを混合散布する。
臨時	6月～7月	うどんこ病 灰色かび病 黒とう病		オンリーワンフロアブル	前日	3回	2000倍	5 mℓ	25ﾘｯﾄﾙ	
臨時	7月～8月	ハダニ類	－	ダニゲッターフロアブル	大豆大期 ～前日	1回	2000倍	5 mℓ	25ﾘｯﾄﾙ	

（注1）
農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。
周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）
農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。
園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

※シャインマスカットは２倍体欧州系品種となります。

ジベレリン　25ppm　ジベレリン協和粉末小ステック（ジベレリン50mg含有）の場合、1包を2ℓの水に溶かす。

フルメット　5ppm　フルメット液剤1ビン（10ml）を2ℓの水に溶かす。希釈した調整液は2日を限度として使い切ること。

（注2）
薬剤混用の順序（水和剤混用の場合）　水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤
薬剤混用の順序（乳剤混用の場合）　水 → 乳剤
薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水 → フロアブル剤 → 水和剤
※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。